

日本語文法学会 2024年度第2回 オンラインイベント 2025年 3月23日 (日)  
ワークショップ「日本語の主題と焦点—言語対照の視点から—」

# 日本語学習者の日本語から見た 日本語の主題と焦点

中西 久実子 (京都外国語大学)

# この発表の構成

- 1 「主題を持たない文」と「主題を持つ文」の選択
- 2 従属節における主題の現れ方
- 3 まとめ

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

## ●学習者（I-JAS、中国語、中級）

- (1) ケンとマリはピクニックに行きたいから地図を見ながら相談していました。しかし、家で飼っている犬は二人がどこに行くかなあと楽しくてしゃべっているうちにサンドイッチが置いてあるバスケットに入ってしまった。二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く途中、**犬はバスケットの中から飛び出しました。**



# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

## ● 久野（1973:28）

主題になり得るのはすでに会話に登場した人物・事柄、すなわち、現在の会話の登場人物・事物リストに登録済みのものを指す名詞句である。

(2) あるところにおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。（作例）

## ● (1) の犬は「家で飼っている犬」で「すでに登場済みのもの」

(1) 犬はバスケットの中から跳び出しました。

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 <sup>5</sup>

## ●母語話者の日本語

(3) 作ったサンドイッチをバスケットに詰めました。ピクニックへ向かう前に二人が地図を見ていたところ、**ペットの犬**がバスケットに入ってしまった。二人は仲良く手をつないでピクニックへ向かいました。

サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、**中に入っていた犬が飛び出してきました**。犬がサンドイッチと林檎を食べてしまったことに気づき、二人はとても残念そうでした。

(I-JAS、母語話者)

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 <sup>6</sup>

## 母語話者・学習者の違い

	主題を持つ文	主題を持たない文
母語話者	「は」を使う	「は」を使わない
学習者	「は」を使わない	「は」を使う

「犬が」

犬は

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

## ● 野田（1996:12）

聞き手が知らない、**できごとの発生そのもの**を伝える場合は主題を持たない文になる。述語は一回だけの動作や一時的な状態を表すもの（「見える」「聞こえる」「来る」など）であるのがふつうである。

(4) そのとき八木**が**ホームランを打った。（野田（1996:12））

## ● 益岡（2014:93）「事象叙述」

特定の時空間に**出現する出来事**—それには、動的なもの（「動的事象」と静的なもの（「静的事象」）がある—を叙述するもの

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

## ●学習者：主語名詞句が既知か未知か

- (1) ケンとマリはピクニックに行きたいから地図を見ながら相談していました。しかし、家で飼っている犬は二人がどこに行くかなあと楽しくてしゃべっているうちにサンドイッチが置いてあるバスケットに入ってしまった。二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く、犬はバスケットの中から飛び出しました。

主語名詞句「犬」は既知の存在

(I-JAS、中国語、中級、再掲)

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●学習者の「は」「が」の産出に関わる先行研究では「新情報となる名詞句は「が」、旧情報となる名詞句は「は」とされている（小西（2017:97）、庵（2016）、小口（2017）など）。しかし、名詞句レベルの考察では(1)(3)の違いが説明できない。

- (1) 二人は知らずにバスケットを持ってピクニックに行く途中、**犬はバスケットの中から飛び出しました**。（学習者）
- (3) サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、**中に入っていた犬が飛び出してきました**。（母語話者）

学習者：名詞句レベルの既知・未知

母語話者：情報構造をみて文レベルで新情報・旧情報

} 区別すべき

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

●母語話者の「主題を持つ文」は先行文脈に  
文脈に前提となる「(範列的に)対立するほかの命題 (益岡  
(1991:174))」の存在がある。

前提となる対立するほかの命題

(5) 雨が降ってきました。しかし、

雨が降ってきました

主題を持つ文

雨は すぐに止みました (新情報)

※庵 (1998) 、Prince (1981:236) で名詞句が「familiarity (なじみがある) 度合いが高い」とされていることと異なる

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

## ●母語話者の「主題を持たない文」

文脈に前提となる他の事象の存在がない。

文全体が新情報

(3)  $\phi$ 。中に入っていた犬が飛び出してきました。

## ●母語話者の「主題を持つ文」

文脈に前提となる「(範列的に)対立(1991:174)」の存在がある。

文全体が新情報なのではない

(5) 雨が降ってきました。しかし、雨はすぐに止みました。

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 <sup>12</sup>

前提となるのは、「来る」「生む」など出現を表す

「事象叙述（益岡（2014:93）：特定の時空間に**出現する出来事**を叙述するもの」

(6) **きのう娘が双子を生みました**。

孫は **二人とも女の子です（新情報）**。

**追加の新情報**

（作例）

(6) の第1文：「事象叙述（益岡（2014:93））」が前提になる。

↓

(6) の第2文：主題を持つ文で新たな情報が追加される。

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択 <sup>13</sup>

●主題を持つ文は、「**事象叙述**（益岡（2014:93））」が既に談話・テキストに導入され、前提になっていなければならない。

(7) A : **金さん**ってまだ来ていませんよね。 **φ10時に必ず来ると**  
言ったのに遅いですね。

B : あっ、Aさん！ **金さん** **{は・が}** 来ました！（作例）

- ・ 名詞だけでは前提にならない。
- ・ 「前の日に言った」など当該の状況に出現する事象でないことは前提にならない。

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択<sup>14</sup>



事象叙述で出現を表すのになぜ第2段落で「犬が」？

「犬が入ったこと」に気づいていない

二人はサンドイッチをバスケットに入れて出発しました。ピクニックへ向かう前に二人が地図を見ていたところ、ペットの犬がバスケットに入ってしまった。二人は仲良く手をつないでピクニックへ向かいました。

サンドイッチを食べようとバスケットを開けたところ、中に入っていた犬が飛び出してきました。犬がサンドイッチと林檎を食べってしまったことに気づき二人はとても残念そうでした。

(I-JAS、母語話者)

# 1 「主題を持つ文」と「主題を持たない文」の選択

学習者 (文法的)	母語話者 (語用論的)
主語名詞句が既知なら 「は」を使う	前提となる「事象叙述」がある 場合、主題を持つ文にする
主語名詞句が未知なら 「が」を使う	前提となる「事象叙述」がない 場合、主題を持たない文にする



## 2 従属節における主題の現れ方

- 学習者の日本語では、**従属節の種類にかかわらず、主語名詞句に「は」が使われることが多い。**

(8) 私**は**まずい料理を作**たら**、お客さんはきっと怒るでしょう、  
**私が** (I-JAS、中国語、中級)

(9) ケンとまりさん**は**サンドイッチ作った**時に**犬はバスケット  
に入りました。 **ケンとまりさんが** (I-JAS、英語、初級)

(10) 中国の人口**は**どんどん増えてきた**状況**によって、不動産に  
対するニーズが増えるのも当たり前だと思う。  
**中国の人口が** (中国語、上級)

## 2 従属節における主題の現れ方

●母語話者の日本語では、主題の現れ方が主節・従属節で異なる。

・主節では主題が現れる。

(11) 母はいつもすぐ夕食を作ってくれます。(主節、作例)

・ある種の従属節には主題は現れない。

(12) 夫が夕食を作ってくれたら、私はとても嬉しい。(従属節、作例)

\*夫は

・主節と主語が同じ場合は、従属節に主題が現れる。

(13) 母は夕食を作るとき、いつも娘に手伝わせる。(主節、作例)

## 2 従属節における主題の現れ方

- 母語話者の日本語では、従属節と主節の主語が異なる場合、仮定を表す「～たら」、時を表す「～とき」、名詞修飾節など、**従属度の高い従属節**の中では主題は現れにくい。

**従属度の高い従属節**（南（1974）の「B類」） → **主題を持たない**

- (14) 電車が遅れたら、遅延証明書が出るはずだ。
- (15) 電車が遅れたとき、遅延証明書をもらってきてください。

**従属度の低い従属節**（南（1974）の「C類」） → **主題を持てる**

- (16) 電車は遅れたが、遅延証明書がもらえなかった。

### 3 まとめ

- 1) 母語話者 : 「主題を持つ文」に「は」を使う  
「主題を持たない文」に「は」を使わない  
学 習 者 : 母語話者が「主題を持たない文」にする文で「は」
- 2) 母語話者 : 文脈に前提となる事象叙述がある場合「は」を使う  
学 習 者 : 主語名詞句が既知の場合「は」を使う
- 3) 母語話者 : 従属度が高い従属節の中では主題が現れない  
学 習 者 : 従属度が高い従属節の中でも「は」が使われる傾向

## 参照文献

- 庵功雄（1998）「名詞句のステータスの相関についての一考察」『言語文化』35, pp. 21-32, 一橋大学語学研究室.
- 庵功雄（2016）「「産出のための文法」から見た「は」と「が」」庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）『日本語文法研究のフロンティア』pp. 307-326, くろしお出版.
- 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店.
- 小口悠紀子（2017）「上級日本語学習者の談話における「は」と「が」の知識と運用—未出か既出かによる使い分けに着目して—」『日本語教育』166, pp. 77-92, 日本語教育学会.

## 参照文献

- 小西円 (2017) 「日本語学習者と母語話者の産出語彙の相違－I-JASの異なるタスクを用いた比較－」 『国立国語研究所論集』 13, pp. 79–106, 国立国語研究所.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』 (新日本語文法選書1) くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- 益岡隆志 (2014) 「文の意味階層構造と叙述の類型」 『モダリティ I : 理論と方法 (ひつじ意味論講座第3巻)』 pp. 85–97, ひつじ書房.
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 大修館書店.
- Prince, E. (1981) “Towards a taxonomy of given-new information”, Cole, P. (ed.), *Radical Pragmatics*, Academic Press.

ご清聴ありがとうございました